

資料1

第1回委員会の主な意見等

第1回委員会の主な意見等(1)

○土砂災害警戒区域について

委員意見		事務局回答
(1)	警戒区域の基準見直しが行われる(例えば、30度未満もイエローになる)と、山間地域では住居できる範囲がなくなる。	<ul style="list-style-type: none"> 指摘事項を踏まえ、十分な調査・検証を行ってきたい。
(2)	警戒区域として指定されていなかった場所は、ローカル性があると認識している。行政だけでは見つけられない箇所もあると考えられるので、何らかの対応が必要。	<ul style="list-style-type: none"> 基礎調査の実施にあたって、地元市町村からの情報を含めた箇所抽出も判断材料に加えることを検討したい。
(3)	基礎調査において、現地調査はどのくらい実施されているのか、すべての箇所で行われているのか。	<ul style="list-style-type: none"> 机上スクリーニングで抽出された箇所は基本的に現地調査を行っている。
(4)	データ精度が高ければ区域指定ができた箇所と、現行基準を満たさなかった箇所の内訳を整理すべき。現状は見逃しは回避すべきなので、前者への対応が必要。	<ul style="list-style-type: none"> 第2回会議以降で報告する。(→資料2)
(5)	様々な図面や記録を参照すれば、過去の土砂堆積状況や湧水状況を推測することも可能であると思われる。全体的な観点で箇所抽出をすることも有効である。	<ul style="list-style-type: none"> 技術的な観点での検討が必要な事柄であるので、別途場を設けて検討していきたい。

第1回委員会の主な意見等(2)

○土砂災害警戒区域について

委員意見		事務局回答
(6)	区域指定の分類に第4の現象(土石流、地滑り、急傾斜地の崩壊以外)を追加することも考えられるのか。	<ul style="list-style-type: none"> 可能性は排除するものではない。近年の災害現象を詳細に分析し、技術的検討を進めたい。
(7)	気候変動等の影響により、降雨も変化している状況を鑑みて、警戒区域の指定基準を変更する必要はないのか。	<ul style="list-style-type: none"> 技術的な観点での検討が必要な事柄であるので、別途場を設けて検討していきたい。
(8)	降雨規模の変化や崩壊状況の変化(例えば傾斜20度の斜面でも崩壊が発生する等)に関する研究データを用いたメカニズムの議論が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 技術的な観点での検討が必要な事柄であるので、別途場を設けて検討していきたい。

○土砂災害警戒情報について

委員意見		事務局回答
(9)	甚大な災害以外において、土砂災害警戒情報の発表と土砂災害の発生はどの程度の割合なのか(土砂災害警戒情報の空振り率は)	<ul style="list-style-type: none"> 台風第19号等の災害以外の分析ができていないので、第2回会議以降で報告する。(→資料2)

第1回委員会の主な意見等(3)

○その他コメント等

- 土砂災害の特徴を鑑みて「適切な避難行動」とは何なのかという観点での検討が必要。
- 土砂災害の発生状況を系統的に収集する方法があるとよい。災害発生時間をピンポイントで明確にすることが必要。